

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部・ 地域創生学科 地域文化コース	吉本和弘・鄭銀志・ 岡本弘道・栗原武士	2022年9月28日 9:30-11:00 Teams オンライン	オンライン (Teams)	テーマ：ゼミ（卒業論文・）の運営方法（コース内・外教員の）について研修
				実施目的：卒業研究指導（ゼミ）の運営について情報交換とノウハウの共有
				キーワード：ゼミ運営、卒業論文と地域課題解決研究、コース内・外教員
				<p><b>実施内容：</b></p> <p>R4年度から実質的に指導がはじまった卒業論文と地域課題解決研究を指導するためのゼミ（3・4年）の運営に関して、コース外の教員と指導方法などを共有し、地域文化コースとしての指導方針や指導内容の明確化を図り、コース所属教員とコース外教員の共通認識を醸成することを第一の目的とした。運営上の問題点を洗い出し、学生にとって公平でかつ有意義なゼミの運営の方法論について議論することで、各教員の指導力の向上に寄与する目的で行った。</p> <p>コース教員それぞれが、自分のゼミ運営方法、指導方針、効果や問題点などについて報告し情報交換することによって、各自が、自らの運営方法の問題点の発見とその改善につなげることができた。</p>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
地域創生学部・ 地域創生学科 地域文化コース	吉本和弘・小川俊輔	2022年10月12日 10:40-12:10 Teams オンライン	オンライン (Teams)	テーマ： 科研費補助を受けた研究課題の紹介
				実施目的： コース教員同志の研究内容の共有、科研費獲得に向けての意識向上とノウハウの共有
				キーワード： 科研費獲得、研究課題紹介、
				<p><b>実施内容：</b></p> <p>科研費を獲得し研究を継続中の教員3名（小川俊輔教授、鄭銀志教授、岡本弘道准教授）による研究内容紹介と科研費獲得の体験をコースで共有し、所属教員同志がお互いの研究内容を学ぶことで研究の連携の可能性を探り、異分野のアイデアを取り入れることにつなげることができた。そして、成功体験に限らず、過去の失敗の体験も同時に聞くことで、次年度からの科研費獲得に向けての意欲を高め、獲得のノウハウを学び、次年度の応募意欲につなげることができた。</p>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
経営学科	朴 唯新	R4. 6.8（水）～ R4. 12.8（水） 10：40～12：10	広島キャンパス 各研究室 （オンライン）	テーマ： コロナ禍の対面授業とクォーター制での授業における工夫と課題
				実施目的： クォーター制導入による授業への影響について情報共有
				キーワード： コロナ禍、 クォーター制導入、 情報共有
				<p><b>実施内容：</b></p> <p>本学では、誰もがコロナウイルスに感染する可能性がある中での対面授業とクォーター制での授業の導入が進んでいる。そのため、各教員は日々、様々な工夫や改善を施しながら、授業を行っている。本FDではそれらについて経営分野の全教員で情報共有・意見交換し、効果的な教育・指導方法を検討する。</p> <p>具体的には、Teamsによる学科会議後（4回、7月13日、9月14日、10月12日、1月11日）に、教員が授業進行において行ったユニークな取り組み等について報告・共有した。今年度は、多くの授業が対面授業で実施され、クォーター制で開講された。そのため、各教員の担当科目を題材に、クォーター制だからこそ取り入れることができる工夫や、コロナなどの対応でハイフレックス授業の実施方法などの各論点について情報共有を行った。なお、各教員による報告・発表後は質疑応答を行い、各教員が参考とすべき点、工夫や改善が望まれる点などについて、全教員で意見を交換した。最後に、地域課題解決研究の一環として、2月17日にONOMICHI SHAREの統括責任者である後藤氏による「東京から修学旅行が尾道へ来たらしい—その時、地域はどうする—」という題でオンライン講演会を開催した。</p>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
地域創生学部・ 地域創生学科・ 地域産業コース (情報学分野)	陳 春祥 岡部正幸 富田哲治	9/26, 10/3, 10/17, 10/24, 10/31, 11/7, 11/14, 11/21, 11/28, 12/5, 12/12, 12/19, 1/16, 1/23, 1/30	IoT・AI 実験室 1321 演習室 1326 演習室 各教員研究室	テーマ： PBL 形式で取り組む情報技術による課題解決を通じた学生協働支援
				実施目的： 副専攻プログラムにおける実験・実習科目での教員によるチーム支援体制の構築
				キーワード： IoT, AI, PBL, 学生協働, キャリアビジョン, 支援体制
				<p><b>実施内容：</b>地域創生学部・地域産業コース（情報学分野）の新課程における新たな取組の一つである副専攻プログラム「IoT・AI 応用技術認定」の上級レベルの選択必修である「IoT システム開発プロジェクト演習」および「AI システム開発プロジェクト演習」の2つの実験・演習科目を後期の毎週月曜日1限から4限に実施した。第一期生となる今年度は受講者が2名であったため、各演習テーマ担当教員のゼミ生を参加するようにした。実験・演習では、本プログラムのために新たに整備したIoT/AI実験室において、学生が協働してPBL形式でIoT・AI情報技術を利用した課題解決に取り組み、情報学分野の全教員がそれを指導・支援した。最終週には、2つの実験・演習科目が合同の発表会を開催し、各学生が実験・演習を振り返り、得られた成果について報告した。報告内容から、専門性の高い演習内容が学生の知的好奇心を刺激したことがうかがえた。これにより、大学院進学を含めた幅広いキャリアビジョンの形成につながることを期待される。IoT・AI 応用技術副専攻プログラム実行委員会において、今年度の実施を通じて得られた成果および課題について整理し、次年度の実施計画について検討する予定である。</p>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
人間文化学部 健康科学科  地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース	松本 拓也 山岡 雅子	4/4(月), 5/18(水), 6/15(水), 7/20(水), 9/21(水), 10/19(水), 11/16(水), 12/16(水), 1/18(水), 2/15(水), 3/15(水) のコース会議内	Teams における オンライン会議	<p>テーマ： 健康科学コースにおける学生支援活動の質的向上</p> <p><b>実施目的：</b> 今年度卒業の困難な4年生が健康科学科に2名（内1名外国人留学生）在籍している。さらに、今年度外国人留学生が健康科学コースに1名入学している。健康科学科・健康科学コースでは、多様な実験・実習科目を提供しており、グループで課題に取り組む内容が多く、高いコミュニケーション能力が必要となる。コミュニケーションが苦手な学生や諸問題を抱えた学生が着実に卒業できるよう組織的な支援が必要である。</p> <p><b>キーワード：</b> 外国人留学生, 学生支援, 組織的取組</p> <p><b>実施内容：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康科学コース（健康科学科）の学生の履修や授業の出席状況等に関する情報を共有し、学生が抱える課題を早期に発見して対応するため、コース内全体の活動を月1回実施した。</li> <li>緊急の場合は、随時、メール、チャット、電話等で情報交換や対応協議を行った。</li> <li>本活動の実施に当たっては、教学課学生支援係および学生相談室と連携し、チューターを中心としたチーム支援を継続的に実施した。</li> </ul>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 地域資源開発学科	朴 壽永 藤田 景子 山本 幸弘 原田 浩幸他 学科教員 全員	令和4年度 期間内	庄原キャンパス オンライン会議 および各チューター対応	<p>テーマ：新カリにおけるアクティブラーニングを活用した実践的な学修・ルーブリック評価</p> <p>実施目的：学科の特色あるカリキュラムの運用と改善</p> <p>キーワード：国際異文化農業体験研修・ルーブリック</p> <p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度の国際異文化農業体験研修における1, 2年次生通年の学内研修メニューおよびコロナ禍で海外研修の代替として実施した国内研修に関して、随時 Teams でのワーキング会議を行い、立案、実施、改善のサイクルを運用できた。</li> <li>R41205 にて課題探究型地域創生人材の育成に係る第3回 科目ルーブリック作成勉強会「国際異文化農業体験研修」におけるルーブリックの活用について で講師を務め、取り組みを全学FDとして共有することができた（荻田・藤田対応）。</li> <li>・学科会議においてシラバス中に3段階のルーブリック評価を導入することを決めて、試行をおこなった。</li> </ul> <p>例 ルーブリック①</p> <p>理想の達成レベル 標準の達成レベル 未到達レベル (学科教員試行対応)</p>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境科学科 生命科学コース	伊原 伸治 生命科学コース 全教員	令和4年度 第 3Q, 4Q	大講義室, 各研究室	<p>テーマ：生命環境科学基礎セミナー、生命科学セミナーの実施方法の改善とキャリア形成への動機付け</p> <p>実施目的：研究室配属を1年次から意識させ、学生が興味のある卒業研究に取り組めるように積極的に学ぶようにサポートする。</p> <p>キーワード：アクティブラーニング、学びの意識づけ、キャリア形成</p> <p>実施内容：                      生命科学コースでは、1年時は生命環境科学基礎セミナー、2年時には生命科学セミナーで所属教員が分野および研究内容を紹介しているが、その実施方法について昨年度までの学生アンケート結果や教員からの意見を参考にして改善を行い、ブラッシュアップを試みた。                      具体的には、研究室配属の希望はGPA順に決まることを1年時から周知して、学習意欲の向上を促した。また生命科学セミナー（2年3Q必修）で、全教員の研究室訪問を行い、所属コースの研究室で学べる内容、研究の方向性を紹介することで、研究領域、将来像、そして配属を希望する研究室の研究内容の理解を深めた。学生アンケートの結果より、F学習意欲の向上が確認され、さらに卒論研究について意欲的に考えるきっかけとなった。</p>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生物資源科学部 生命環境学科 環境科学コース	大竹 才人 橋本 温 青柳 充 小林 謙介 柳下真由子	R4年4月28日 R4年5月19日 R4年5月26日 R4年6月2日 R5年2月15日 R5年3月28日	庄原キャンパス 各教室/研究室等	<p>テーマ：新カリにおけるアクティブラーニングを活用した学びの完成</p> <p>実施目的：1年次から4年次まで通した主体的能動性向上カリキュラムの運用と改善</p> <p>キーワード：1年次セミナー、2年次セミナー、3年次中間発表会、4年次卒業論文発表会</p> <p><b>実施内容：</b>                      新カリ3年目の運用として、アクティブラーニングの内容充実を図った。1年次科目の生命環境科学基礎セミナーでは、環境に関わる第一線の現場でご活躍の多くの方々をお招きして、多岐に渡る分野のお話を伺うことで、昨年度よりも更に内容を充実させた。行政からは国政より1件、県政より1件、民間企業からは3件を招聘して、ご講演と事例の紹介を頂いた。1年生からは活発な議論が交わされ、環境に関する新たな認識と今後の学びへの意識付けがなされた。  <a href="https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/bioresourcesciencesf/221014.html">https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/bioresourcesciencesf/221014.html</a>                      2年次科目の環境科学セミナーでは、エネルギー問題を題材として地方自治体が抱える問題点やその解決策、更には地域住民への対応などを含めた実践的な地域課題解決に取り組んだ。本年度は対面での実施となり、昨年度と比較してよりディスカッションが深まっただけでなく、上記にある1年次のグループワークが最大限に発揮された討議となった。  <a href="https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/bioresourcesciencesf/221226.html">https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/bioresourcesciencesf/221226.html</a>                      3年次では卒論中間発表会を対面で実施した。3年次の12月に進捗状況の報告をポスター形式で口頭発表した。教員による評価を行い、上位3名は表彰して卒業論文の取り組みへの意欲喚起を行った。  <a href="https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/bioresourcesciencesf/230201.html">https://www.pu-hiroshima.ac.jp/site/bioresourcesciencesf/230201.html</a>                      4年次は卒業論文発表審査会について、昨年度までオンラインで行っておりその検証を実施した。学生アンケートを実施した結果、課題もあったがオンラインに特徴的な利点も明らかになった。詳細は下記の紀要にまとめられ、今後の卒業論文発表審査会に生かす予定である。                      県立広島大学 大学教育実践センター紀要 第3号 11-16頁 2023年2月</p>



令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学部看護 学科/保健福祉学科 看護学コース	教育課程検討会 青井聡美	毎月1回 計12回開催 ①4月5日 ②5月6日 ③6月17日 ④7月12日 ⑤8月5日 ⑥9月2日 ⑦10月13日 ⑧11月11日 ⑨12月12日 ⑩1月16日 ⑪2月20日 ⑫3月10日	Teams 会議	テーマ：看護学コース DP ルーブリック作成と学修支援アドバイザーの運用と国家試験対策
				実施目的：DP 達成度の可視化と主体的な学修を促進させる学修環境の充実を図る。
				キーワード：DP ルーブリック 卒業生アドバイザー 国家試験対策
				<b>実施内容：</b> 1. 看護学コース DP ルーブリック作成 看護学コース DP ルーブリック作成に向けた看護 FD 研修会を3回(5月・6月・7月)開催し、看護学コース教員全員で協働し、9月に看護学コース DP ルーブリックを完成させた。後期開始のチューター面談から DP ルーブリックの活用を開始した。 2. 卒業生アドバイザーの運用 養護教諭課程の科目において1名の活用を行った。内容は1・2年生23名を対象に養護教諭の保健活動についての講義であった。講義を受けた学生は看護師免許を持つ養護教諭の利点や養護教諭の活動内容を具体的に理解することができ、目指す養護教諭像を明確にしていた。また、卒業生は自身の活動や仕事を振り返り、自身の強みに気づきモチベーションをあげるとともに、子どもたちの健康増進や疾病予防のための次への取組を見出していた。 3. 国家試験対策 1) 今年度から「国家試験対策通信」を5月と12月に作成し、学生に配信した。5月の国家試験対策通信は、卒業生が行った国家試験対策の開始時期やスケジュール、勉強方法をまとめ、12月分は卒業生が4年生の国家試験に関する質問に回答した内容をまとめ配信した。 2) 国家試験対策セミナーを2回実施した。 8/5 卒業生との座談会を開催した。42名が参加した。 8/8 解剖学セミナーを開催（津森教授に依頼）した。4年生55名、3年生48名が出席した。

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部看護 学科/保健福祉学科 看護学コース	実習検討会 日高陵好	テーマⅠ 年1回 (令和4年4月)  テーマⅡ 毎月1回 計11回開催  ① 4月27日 ② 5月23日 ③ 6月13日 ④ 7月11日 ⑤ 9月2日 ⑥ 10月12日 ⑦ 11月15日 ⑧ 12月22日 ⑨ 1月19日 ⑩ 2月14日 ⑪ 3月8日	テーマⅠ Teams 会議  テーマⅡ Teams 会議	テーマⅠ：実習指導担当者との情報共有と協議：実習の成果と課題・看護実習教育の質向上 テーマⅡ：臨地看護実習教育の充実
				<b>実施目的：</b> 本学教員と実習指導担当者間で情報共有と協議を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握・共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質向上を図る。
				<b>キーワード：</b> 臨地看護実習、情報共有、看護教育質向上
				<b>実施内容：</b> テーマⅠ：実習指導担当者協議会の企画・運営 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度もZoomでのオンライン会議（リアルタイム型）で実施した。会では前年度の実習成果・課題を領域ごとに報告した。その後「コロナ時代の新人看護師に求められるもの」をテーマとし、参加者全員（臨地実習指導者と本学教員）で協議した。コロナ禍の中、臨地で対象者と接触する機会の減少から、学生のコミュニケーション力低下、新人看護師の不安・戸惑いが現状課題としてあがった。学内で模擬患者演習、シミュレーション学修等をさらに強化、また知識・技術だけでなく、想定外の場面や患者の否定的感情への対応等、より現実的な対応力の演習導入が必要であることが明示された。臨地実習では学生が対象者と積極的にコミュニケーションをとれるよう促していくことも重要であることを共有した。事後アンケートの結果、この協議会の日時、方法、内容とも概ね良好であったが、施設側は1台のパソコンを共有しているため、オンラインでのグループディスカッションの方法を次年度に向けて検討する必要がある。  テーマⅡ：臨地実習教育の充実 実習指導担当者協議会の企画・運営、同意書の内容確認と増刷、次年度実習計画の策定・施設への依頼、SNSにおける個人情報取り扱いの啓発を例年通り行った。COVID-19の状況変化に伴い、それに即した対策ガイドラインの改定（第5版）を行った。今後コロナ感染症取扱い等の変化から継続して改定することが求められる。今年度はコロナ禍で2年次に臨地実習が中止となった3年生への看護技術強化演習を実習検討会として実施した。今後の継続は臨地実習の状況から検討が必要である。コース予算を効率的に使用するため、実習で使用する物品は予算状況を鑑みながら、全領域で情報共有を行い無駄のないように発注・管理を行った。毎回の会議で各臨地実習報告を行い、実習指導上の問題点や指導内容について情報共有及び意見交換を行い、実習指導体制や実習施設の環境の充実を図った。

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部看護 学科/保健福祉学 科看護学コース	看護学コース FD 担当 吉田和美	テーマⅠ 令和4年 4月27日5限 5月24日5限 6月29日5限 7月26日5限 令和5年 1月13日3限	テーマⅠ Teams 会議	テーマⅠ：目標・ポリシーに準拠した教育評価の推進に向けたルーブリック導入 テーマⅡ：看護学コース人材育成目標に準拠した教育方法の検討
		テーマⅡ 令和4年 4月28日昼休憩 5月26日昼休憩 6月30日昼休憩 7月28日昼休憩 8月25日昼休憩 9月29日昼休憩 10月27日昼休憩 11月24日昼休憩 12月22日昼休憩 令和5年 1月26日昼休憩 2月22日昼休憩	テーマⅡ Teams 会議	実施目的：人材育成目標や卒業時の到達目標の達成に向けた教育方法の検討と刷新、適正な教育評価を目指した取り組みを推進する。  キーワード： DP ルーブリック 実習ルーブリック DX 教育 地域活動  実施内容： テーマⅠ： 1. 看護学コースディプロマポリシー(DP)完成を目指した研修 研修は第2回FD(5月24日5限)27名，第3回FD(6月29日5限)26名，第4回FD(7月26日5限)25名の参加状況であった。各回の研修内容は録画を行い，動画視聴による事後参加も1-2名あった。研修後アンケートでは「コースとして目指す方向性・到達内容が明確になる」「担当領域のルーブリックの見直しにつながる」「他領域の学修内容や教員の考え方がわかる」などがあがった。 2. 科目ルーブリック(実習科目) 研修は第1回FD「統合実習」(4月27日5限)27名，第5回FD「地域包括ケア実習」(R5年1月13日3限)26名の参加状況であった。研修後アンケートでは，参加動機として「地域包括ケア実習は新カリキュラムで新たにスタートするため理解を深めたい」「ルーブリックを批判的に見る力を養いたい」との回答があった。意見としては「学びを得る機会となった」との回答がある一方で，「実習構想について説明が必要」「目標の決定と評価項目の一貫性を確保することが必要」との回答もあり，今後の検討事項が明らかになった。 テーマⅡ： 1. DX教育導入に向けた教育方法・成果の論文化に向けた意見交換会 全てランチョンセミナーとして開催した(4月28日:25名，6月30日:15名，8月25日:20名，10月27日:23名，12月22日:17名，2月22日:15名)。DX教育として新たに導入した演習・実習での実施報告や評価方法と結果に関する情報共有を行う場となった。 2. 看護学分野に関する英語論文抄読会 全てランチョンセミナーとして開催した(5月26日:18名，7月28日:15名，9月29日:15名，11月24日:16名，令和5年1月26日:19名)。中垣講師，吉田准教授，土路生講師，井上准教授，山中教授より話題提供を得て実施した。 3. 地域活動に関する情報交換会とTeamsを活用した情報共有 看護 FD の Teams に地域活動の情報を随時投稿することで，全体への共有を図った。地域活動実践例セミナーの告知や，保健福祉学科として活動している地域活動のHP掲載記事情報，看護学コースの学生の地域活動の取り組み，広島県大学生地域連携活動発表会の情報を共有した。

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 理学療法学 コース	佐藤勇太	(前期) 毎週水曜日 4限 (後期) 毎週水曜日 昼休み	Teams 内	<p>テーマ： 「学生の動向を把握・共有する」, 「指定規則改正や国家試験出題基準改定に伴う講義の形態・方向性を吟味する」, 「各教員の研究領域の紹介」</p>
				<p>実施目的： 「要支援学生の指導・援助の一貫化を図る」, 「指定規則改正や国家試験出題基準改定に伴う講義形態・方向性の共有および改善を図る」, 「最新の知見を踏まえた専門教育の充実を図る」</p>
				<p>キーワード： 学生支援, 国家試験, 教育実践</p>
				<p>実施内容：</p> <p>(1) 「学生の動向を把握・共有する」について 今年度に入り原則対面での講義が展開されてきた。一方これまでのオンライン講義等の実施により、知識・技術の定着には個人差もあることが予想されたことから各チューターを中心に科目担当や学科教員とともに学生の動向を把握するよう努めてきた。また、各学生の情報を共有することで、指導・援助の一貫化を図った。各学生の状況は、毎週のコース会議にて各学年担当のチューターから報告された。配慮が必要な学生については、各担当教員を中心に詳細な報告・情報共有をし、協議を行った。臨床実習の時期には、臨床実習指導者と教員が連携し、学生状況の把握・共有を図った。</p> <p>(2) 「指定規則改正や国家試験出題基準改定に伴う講義の形態・方向性を吟味する」について 指定規則改正や国家試験出題基準改定の内容に即した実習形態や講義内容にするために専門教育のさらなる充実を図り、講義内容、学生指導のあり方について検討した。また感染予防対策をより効果的に実施していくための情報共有を行った。コース会議において、国家試験模試の結果を共有し、国家試験に向けた講義等に活用した。コース会議に合わせて月1回程度、各種教授法の実践例紹介などを通して情報共有し、今後の講義を吟味した。また、指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築、新施設基準に即した教育物品の購入・充実化を継続して実施した。</p> <p>(3) 「各教員の研究領域の紹介」について 各教員の研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することを通じ、研究・教育能力の向上を図った。コース会議に合わせて月1回程度、各教員の研究紹介などを通して実施した。</p> <p>(1)(2)(3)の内容は、個人情報を含むコース特有の内容についての議論が必要である。このため、公開は、取り扱う内容によって判断するものとした。</p>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏名	日時	実施場所	実施内容等
保健福祉学部・ 保健福祉学科 作業療法学コース	助川文子	テーマⅠ コース会議 (毎回) テーマⅡ 年9回 毎月第1・3水曜 12:30-13:00	ハイブリッド (4102 講義室 と Teams)	テーマⅠ:学生支援の検討 テーマⅡ:「教育と研究領域を主題とした発表」
				実施目的: テーマⅠ 学生の情報共有と指導・援助のコース内のコンセンサスを図る. 事例検討, テーマⅡ: 各教員の教育課題や研究領域における課題を主題とし, 最新の研究エビデンスの共有と研究・教育能力の向上を図る.
				キーワード: 学生指導, 臨床実習指導, 国家試験指導, アクティブラーナー, 研究
				<b>実施内容:</b> <b>コース会議: 学生情報の共有</b> ① (5月18日) (高木) 高学連携 ② (7月6日) (吉川) クリニカルリーズニング ③ (7月20日) (増田) 教育内容を反映する web 利用 大学広報/アンケート報告 ④ (8月3日) (久野) 質的研究ガイドライン ⑤ (9月21日) (助川) 障害がある子どもに対するストロー自助具の開発 ⑥ (10月19日) (藤巻) 作業療法にふさわしい学生 ⑦ (11月16日) (池内) 2022年度 評価実習の報告 ⑧ (12月21日) (西田) 研究紹介 ⑨ (1月18日) (田中) 総合臨床実習の今後の展望と課題

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネータ 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 保健福祉学科 コミュニケーション 障害学コース	伊集院睦雄	令和4年度 (年6回実施)	Teams 上にて オンラインで実施	<p>テーマ：年間を通じた学科での教育改善活動を目的とし、併せて研究活動の活性化を図る</p> <p>実施目的：教育の質の向上を目的として、各教員が行っている研究・教育活動、実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。また、教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。さらに本活動を通し、教員の研究能力の向上と研究活動の活性化を促進させる。</p> <p>キーワード：研究活動情報共有、教育の改善、伝達講習</p> <p><b>実施内容：</b></p> <p><b>テーマⅠ</b> 教員が取り組んでいる研究活動の紹介と議論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 加齢性音声障害について（2022年7月22日、話題提供：田口亜紀）</li> <li>② 高音急墜型感音難聴の3症例への音声コミュニケーション指導（2022年10月26日、話題提供：佐藤紀代子）</li> <li>③ 意味性認知症例における語彙の再学習（2022年12月23日、話題提供：伊集院睦雄）</li> <li>④ 舌の加齢性変化と舌圧測定の意義（2023年2月6日、話題提供：矢守麻奈）</li> </ol> <p><b>テーマⅡ</b> 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「手話言語法」と「情報・コミュニケーション法」（2022年5月30日、話題提供：長谷川純）</li> <li>② 学外実習に関連した情報共有（学生の感想、「評価報告書」「ケースレポート」など授業資料）（2022年6月22日、話題提供：中村 文）</li> </ol>

令和4年度 県立広島大学 学部・学科・コース・研究科（専攻）等によるFD活動（教育改善）報告書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
人間福祉学科 (コース)	大下 由美	令和4年度 (1)学科・コース全 体研修会 2/15(水) 10:40~12:10 小・中研修会 1/10~2/14 までで 小グループごとに 各1回実施 (2)ピア・レビュー 事業の実施(実習 代替プログラムを 含む)	三原キャンパス内 (一部対面実施を 含む)	テーマ： 人間福祉学コースの教育の質の向上にむけて
				実施目的：教育・研究に関する議論を通して、コースの特色を明確化する
				キーワード： アクティブ・ラーニング、オンライン教授法、ピア・レビュー
				<p><b>実施内容：本年度人間福祉学コースでは、以下の2つの活動を行った。</b></p> <p>(1) 昨年度のコースFD研修で提示された意見を踏まえ、今年度も、教育、研究、コースPRに関するディスカッションを行い、コース教育の充実と研究活動の活発化に向けて取り組んだ。</p> <p>①本コースの教育内容等について、外部の視点(SAや卒業生等の意見)を積極的に取り入れる機会を持ち、コース教員全体で、振り返りを行う(年1回)。</p> <p>以下の②で行った小・中グループに分かれた2回の研修内容を相互共有し、人間福祉学コースのPRできる教育内容、研究内容について議論した。特に卒業生や現場からの本学卒業生へのコメントを踏まえ、コースの教育改善に向けたアイディアを出し合った。その中から、次年度コースFDとして取り組む内容を決定した。</p> <p>②少人数に分かれて、コース教員相互の研究に関する情報を共有する機会を持った(2回)</p> <p>4人の小グループを作り、教員の研究内容を踏まえたコース教育についてグループごとにディスカッションを行った。5人の中グループ(昨年と同じグループ・メンバー)で、教育、研究、コースPRについて、昨年度からの気づきや進展について、ディスカッションを行った。</p> <p>これらの研修から、次年度、卒後教育の充実に向けた取り組みとSAを活用した教育内容の充実に向けた活動をしていくことが発案された。</p> <p>(2)ピア・レビュー</p> <p>①対面授業でのピア・レビューを積極的に行った。</p> <p>可能な限り他の教員の授業を参観し、授業内容、教授法等について議論する機会を持った。</p> <p>②社会福祉実習と精神保健福祉実習の代替措置プログラム(オンラインを含む、対面プログラムを中心)において、教員が相互に教授内容や方法について、意見交換を行い、代替措置プログラムの教育の質の向上を図る。両実習の代替措置プログラムでは、担当教員が相互にピア・レビューし、プログラム内容及び教授法を振り返った。</p>